

№

問

題

- 1 天然の良港で古くから日本有数の港として栄えた津の港。壊滅的被害をもたらせた大地震が発生したのは『宝永4年』である。
- 2 家康の側室・清雲院於奈津の方は、伊勢商人の江戸進出に尽力した。江戸日本橋大伝馬町に大店舗を構えた津の商人の一つが『田端屋』である。
- 3 津市中心市街地の東部、寿町や乙部には津藩に関係が深い寺院が多くあるが、寺で一番古い歴史を持つお寺は『西来寺』である。
- 4 明治41年(1908)大日本軌道株式会社が設立され、津～久居間に軽便鉄道が開通。その後、中勢鉄道株式会社に移り、北は岩田橋、南は大仰、二本木、『家城』まで延伸された。
- 5 杉山流鍼術の祖・杉山和一は津藩士の息子。幼少に病で失明し江戸に出て鍼を学び、「管鍼法」を発明した。将軍綱吉の鍼治療に成功したことから、本所一ツ目に与えられた屋敷地に杉山流鍼治療導引稽古所を設けた。これは『世界初』の視覚障害者教育施設である。
- 6 地理学者、文化人類学者にして探検家、また情報整理・発想法「KJ法」で著名な川喜田二郎は津出身。ヒマラヤを生涯こよなく愛し『ヒマラヤ二郎』の異名をとった。
- 7 香良洲町出身の松本宗一は明治11年(1877)に創刊した「伊勢新聞」の『創刊者』である。
- 8 我が国最初のノーベル賞（物理学賞）を受賞した湯川秀樹博士。戦前の京都一中時代、同校の水泳講習として一年生の時から毎夏3週間、津の寺院を宿舎に贅崎（にえぎき）で観海流の講習を受けた。宿泊したお寺は『西来寺』である。
- 9 3代藩主藤堂高久が延宝8年(1860)に建てた臨濟宗のお寺。墓所には高久の生母と4代藩主高睦（たかちか）の生母の五輪塔などがあるのは、橋内地区乙部の『浄明院』である。
- 10 高山（こうざん）さんと親しまれる高山神社は、藩主ゆかりの兜を津城内に祀ったのがルーツ。明治10年(1877)一般人もお参りが出来るように津公園内に社殿を建立。明治36年、津城本丸に遷座したが、戦災で焼失。昭和22年に復興され、同44年、現在の内堀埋立地に移っている。祭神は『藤堂高虎』である。
- 11 橋南地区垂水にある寺。平安後期、白河院により七堂伽藍が建てられ、坊舎16宇が軒を並べた大寺院だったが、信長の北畠攻めで、滝川一益・木下藤吉郎により焼き払われたと伝える。現在は「大日さん」と親しまれる大日堂があるが、往時の姿を偲ぶべくもない。この寺は『垂水寺』である。

- 12 橋内地区寿町の天然寺は「ていねい寺」とも呼ばれ、手入れの行き届いた庭があり、その奥に「旧異宗珍居士」と刻んだ小さな墓がある。元禄13年(1700)九州の武士・荒木忠左衛門は旅の途中病に罹り、病死したのでこの寺へ葬られた。一風変わった戒名からキリシタンとの関りがあるのではとされている。出身地は『五島列島』である。
- 13 丸之内商店街には小ぶりながら津にゆかりの歴史的人物の銅像が4体ある。藤堂高虎、谷川士清、松尾芭蕉、そして『西島八兵衛』である。
- 14 高虎の築城の特徴の一つは高い石垣。高虎が築城に重用し、現代にも伝統が引き継がれている石工集団は『穴太衆』である。
- 15 小堀政一(遠州)は大名にして茶人、建築家、作庭家として有名だが、正室は藤堂高虎の『養女』である。
- 16 高虎は「人間50年」と謳われた当時の平均寿命からすると長寿を全うした。寛永7年(1630)10月5日、奇しくも最後の主・家康と同じ75歳で死去したが、亡くなったのは『伊賀上野』である。
- 17 桜、ムラサキツツジの名所、津偕楽公園は、元は津藩主の鷹狩り場。安政6年(1859)11代高猷(たかゆき)が造園して山荘としたことから御山荘とよばれた。津城から御山荘へ向かうための橋が架けられ、この橋は『御山荘橋』とよばれた。
- 18 寛政一揆後の藩政建て直しに自身の歳費を蓄え、それを原資に藩校有造館を創設するなど名君と讃えられる10代高兌(たかさわ)。元は『久居藩主』である。
- 19 士清は幼いときから将来立派な人間になるための学問の基礎を二人から学んだ。父・義章と福蔵寺の『沢庵和尚』である。
- 20 士清の著した「日本書紀通証」は、日本の歴史について書かれた『日本書紀』の中に出てくる言葉を解釈した本である。
- 21 士清は、考古学の「勾玉考」も著している。野田地区から出土した銅鐸を手に入れて大切にしていたが、後に息子の士逸が『高田本山専修寺』に寄進した。
- 22 士清は屋号を「恒徳堂」という『医者』の家に生まれた。
- 23 士清のお墓がある臨済宗妙心寺派のお寺は『福蔵寺』である。
- 24 反古塚の碑の裏に刻まれた士清の辞世の歌は、『ひらがな』で書かれている。

- 25 猪飼敬所は江戸期、京都で活躍した儒学者。69歳以降しばしば津藩に迎えられ、78歳で津に移住、85歳で没するまで藩校などで経書を講じた。遺言により葬られたのは、藩校創設以前、藩士教育を担った寺。それは『四天王寺』である。
- 26 江戸時代の面影が数多く残る一身田寺内町では、昭和6年～27年頃にロケ地として時代劇映画が撮影された。その映画の本数は『10本』である。
- 27 江戸時代に苗字帯刀が許され、庄屋・肝煎などの権限が与えられた郷士を紀州藩では『帯刀人』と呼んだ。
- 28 昭和8年、国策によって開拓移民の教育訓練施設（拓殖訓練所）が河芸町千里ヶ丘西部にあった三重高等農林学校に併設されたが、その目的は『満蒙移植民』の養成であった。
- 29 河芸町東千里の式内尾前神社の参道東側の石積み台の上に「禁殺生」「享保丙午」と彫られた石柱があるが、寄進したのは紀州藩主『徳川宗直』である。
- 30 河芸町三行地区の御幸城の城主であった伊藤内蔵之助重坊は、名を茂坊と改め領地と城を上野城主に譲り『僧侶』になったといわれている。
- 31 芸濃町落合の平家ゆかりの寺の境内にナギの木が植えられている。ナギは常緑高木で雌雄異株。葉脈が縦に走り、横に裂けにくいことから夫婦和合を表し、ナギは風に通じ航海の安全のお守りとされ、平氏の守り木とされてきた。ここのナギの木は『平安神宮』から頂いた。
- 32 芸濃町雲林院字城山に中世の城「雲林院城址」がある。元徳3年(1331)雲林院祐高が築城、高さ70mほどの小山で、土塁・堀切・曲輪がある。天正8年(1580)9代祐基(すけもと)が織田信包に追放されるまで、雲林院氏は250年ほど続いた。雲林院氏は当時伊勢に勢力を覇っていた『北畠氏』の分家である。
- 33 安濃町の経ヶ峰は長野氏の家来進藤左金吾が経典を埋めたといわれている山であるが、古くは『安濃岳』と呼ばれていた。
- 34 安濃町東観音寺地区の日野丘1号墳から明治30年ごろ地元民が車輪石2個と勾玉1個を発見した。この車輪石は貝輪の『首飾り』を模して作られたものである。
- 35 安濃町草生地区の経ヶ峰麓の丘陵に草生城址がある。中世の山城で、城主は長野氏の一族『細野藤敦』である。

- 36 経ヶ峰の中腹、美里町の草安という所にあった草安寺は、信長の兵火で焼失したが、その際、里人が仏像を運び出し、その後、高座原の高福寺にお堂を建てて安置し、現在に至る。この仏像は『大日如来』である。
- 37 国指定史跡・長野氏城跡は、前面に曲輪（くるわ）があり、眺望がよく中勢一帯が見渡せる。この城跡の後方の山地には城には不可欠な『武具倉庫』の跡が残っている。
- 38 戦国時代末、長野氏一族は討ち死にしたり、他の武将に仕えたり、帰農したりするが、その中で徳川幕府に従い明治維新まで大名として残った一族は『家所氏』である。
- 39 鎌倉・室町時代の約350年間にわたり美里町長野の地を本拠地として君臨した長野氏は、天正4年（1576）に攻め滅ばされた。滅ぼしたのは『藤堂氏』である。
- 40 美里町南長野地区の西方の小高い山に、かつて長野氏の菩提寺があったと「勢陽雜記」に記されているが、長野氏滅亡とともに衰退した。このお寺は『智永寺』である。
- 41 美杉町、眞福院の北西にある溜池は津藩により築造されたもの。主に三多気地区の灌漑用として利用されている。面積は約70アール。この池を『藤堂池』という。
- 42 美杉町逢坂地区の「女郎石弁財天」の御神体は、京から北畠氏を頼ってきた豊姫と竹姫のうち豊姫の所持していた不思議な形の石と伝える。この石に関係の深い虫は『くも』である。
- 43 飼坂峠の道端には、山賊に切り殺された旅人の供養に村人が建てたというお地蔵さんが立っている。現存する2体のうち1体は首のない首切地蔵、もう1体は『足切地蔵』である。
- 44 美杉町八知（やち）地区の仲山神社境内に、昭和15年拝殿修復の際出土した大洞石製の石造水船（高さ約46cm×20cm角）がある。側面に永享5年（1433）銘がある。昭和32年『国指定文化財』に登録された。
- 45 白山町から、県道久居美杉線を一志町へ抜けるトンネル手前に大きな石造の鳥居が見える。鳥居をくぐり坂道を登った山頂に『白山比咩神社（井生）』が鎮座している。
- 46 天皇に随行した大伴家持は「河口の野辺にいほりて夜のふれば 妹がたもとし思ほゆるかも」と詠んでいる。この天皇は奈良時代、白山町に10日間滞在した『天武天皇』である。
- 47 白山町垣内地区の布引山中に縄文初期から中期にかけて人が生活していた所がある。ここに戦後、満州から引き揚げてきた人々が開拓のため集落を形成した。集落には昭和37年まで『倭小学校布引分校』があった。

- 48 一志町高野地区の高寺遺跡は、各時代の石器や土器片などが出土した複合遺跡。ここから旧石器時代の物といわれるナイフ形石器が出土している。この石の材質は『サヌカイト』である。
- 49 一志町高野団地内にある古墳時代中期の上野山3号墳は、津市指定文化財。このあたりから『銅鏡』が出土している。
- 50 一志町には白鳳時代の寺院跡が2つある。JR名松線伊勢八太駅西方の水田一帯の班光寺(ばんこうじ)跡と、高野地区で青銅製の風招が出土した『高田寺跡』である。
- 51 財政が非常に苦しかった天保年間、自ら鋸やモッコを持ち新田開発を行った久居藩主は『高聴(たかより)』である。
- 52 戸木町羽野にある上野遺跡は、縄文時代から戦国時代に及ぶ複合遺跡。古墳群からは埋葬に使われた珍しい『船形石棺』が出土している。
- 53 天文23年(1554)木造具政が隠居所として築いた戸木御所(戸木城跡)は、現在『小学校』になっている。
- 54 昭和天皇は2度、榊原温泉でお泊まりになられた。昭和50年の三重国体と同55年の全国植樹祭のときで、お泊りになられたのは『白雲荘』である。
- 55 榊原の射山神社は式内社である。貝石山を御神体としていたが、約400年前に現在地に社殿を建て御霊を遷座させたのは時の『将軍』である。
- 56 昔、香良洲の漁師が疲れ果てた旅の武士を津まで船で送ってあげた。何かお礼をしたいというので、「村の漁場が狭いので、津藩の役人に広げてもらえるよう頼んでほしい」と告げた。するとその後、望みどおり漁場は広がったと伝える。この武士は『徳川吉宗』である。
- 57 新香良洲大橋北詰東には、香良洲町内にあった常夜灯や道標が移設されている。最も大きい道標は「右さんぐう道 左からす道」と刻まれ、元は藤枝南口にあった。建立した女性の名は魚にちなんだ『鯛女』である。
- 58 香良洲町の面積の3分の1を使用した予科練の正しい呼び名は、三重海軍航空隊であったが、略称は『三重空』である。
- 59 香良洲の予科練の人たちは休日などによく食べに地元の食堂に行った。当時、香良洲には食堂が『10軒』あった。

- 60 西丸之内の正覚寺境内に2代高次の4女で切支丹だったという姫（香林院）の石棺型墓がある。謎の多い姫だが彼女を葬るにあたり、『城内の赤門』が下げ渡された。
- 61 津なぎさまちは平成17年、中部国際空港と高速船で40分（現在は45分）で結ぶアクセス港として開港された。乗船場の近くに、友好都市提携20周年を記念して、中国・鎮江市より寄贈された石像がある。それは『獅子』である。
- 62 鰻料理の新玉亭から少し西に、道にはみ出した大銀杏があるが、崇りを恐れ誰も伐れない。ここは津藩重臣の屋敷跡。明治初期、不平士族による騒動の頭目に担がれたこの家の若き主は責めを負って切腹し、その怨念という。重臣の名をとってこの木は『采女銀杏』と呼ばれている。
- 63 一身田・専修寺の東隣角にあり、本山の重要役職である維那職を務めるお寺。本堂の鬼瓦に寛永16年(1639)のヘラ書きから一身田に現存するもっとも古い建物。このお寺は『玉保院』である。
- 64 一身田・専修寺が保存している「西方指南抄」6冊と「三帖和讃」3冊は、いずれも『県文化財』である。
- 65 河芸町久知野地区の服織神社は延喜式内社で、奄芸郡13座中の1座である。祭神は農業、養蚕、機織りを奨励された『稲田比売命』である。
- 66 河芸町西千里には平安時代の高僧が建立し、天皇の勅願寺でもあった七堂伽藍の円応寺があったと伝わるが、その高僧とは『弘法大師』である。
- 67 芸濃町楠原字庭代の伊勢別街道沿いに参宮の旅人の安全を祈るための塚がある。庚申像、地藏石像3体、それに浄蓮寺の覚順和尚が願主となって弘化3年(1846)に建てた馬頭観音などが祀られている。ここを『庚申塚』と呼んでいる。
- 68 芸濃町楠原地区の浄蓮寺には法華石経塔（供養塔）がある。大雨で池の堤防がよく切れるので、村人は「さよ」という娘を人柱にした。すると、雨も降らないのに大水が出たり、病人が出るなど災いが続いた。このため「さよ」の霊を慰めようと供養塔を『覚順和尚』が建てた。
- 69 安濃町草生地区の経ヶ峰の麓には、八百比丘尼の伝説がある。美しい娘が里の無尽講であるものを食べ、何百年たっても年をとらなくなった。その娘が食べた肉は『猿の肉』である。
- 70 安濃町草生地区の経ヶ峰麓の丘陵に比佐豆知菅原神社がある。地元では『経ヶ峰』の天神さんと親しまれている。

- 71 美里町北長野細野地区の西端の土手に半分埋まっている「おこり地蔵」は、かなり大きくて古く、ご利益は『疫病退散』である。
- 72 北畠具教（ともりの）の娘・雪姫は美杉町多気に里帰りして東御所にいたところを織田軍に捕らえられ、庭の桜の木に縛り付けられた。すると『狐』が現れ雪姫を助けたという伝説が残る。
- 73 白山町川口地区の国指定重要文化財、十一面観音立像は、明治初期に廃寺となった高田寺に伝来したものである。現在この立像は『上野公民館』に安置されている。
- 74 一志町高野地区にある堰守（いもり）神社跡は、旱魃で困窮する農民を救済するため、「高野井」を完成させた津藩郡奉行・山中為綱を『山中大明神』として祀ったものである。
- 75 久居の昔話。戸木の風早池は大雨の毎に堤防が切れ、困った農民が巡礼を人柱にした。以後堤防は切れることなく豊作が続いた。でもここで釣りをすると『笠をかぶったような鯉』が釣れるという。
- 76 榊原の寺院に県内でも珍しい猫を描いた釈迦涅槃図があり、毎年3月15日にご開帳される。この寺は『海泉寺』である。
- 77 香良洲神社の祭神は天照大神の妹神「稚日女」。欽明天皇の時代、ご神託によりある神社から分霊して祀ったと伝える。ある神社とは『生田神社』である。
- 78 香良洲の八太家は、明治後期の建造物4件が、平成25年3月『国登録有形文化財』に登録された。
- 79 雲出川の支流の一つ、一志と美杉の境に位置する矢頭山より発している川は『波瀬川』である。
- 80 参宮道や官道としてだけでなく、津からは水産物や塩が、伊賀方面から菜種油や綿を江戸まで運んだ物流の道でもあったのが『伊賀街道』である。
- 81 平成13年に完成した津観音五重塔。総高21m、初層内陣の心柱を囲み四方に現代では珍しい脱乾漆造の大日・釈迦・薬師・阿弥陀の如来4体を安置。塔のモデルとなったのは、奇しくも旧津藩領内にある海住山寺の国宝五重塔。この寺の所在地は『木津川市』である。
- 82 大坂冬の陣のきっかけとなった京都・方広寺の大梵鐘の鑄造に関わり、後に津に移った名工・辻越後守などの鑄物師が居住していた津城下の町名は『釜屋町』である。

- 83 「一身田寺内町の館」は平成14年、寺内町観光の拠点および市民コミュニティー施設として開館した。寺内町に関する資料もあるこの館の所在地は『向拝前（ごはいまえ）』である。
- 84 一身田寺内町は、津市北部の志登茂川と南を流れる支流・毛無川に挟まれ、氾濫原に立地している。この辺りの平均海拔は『0m』である。
- 85 伊勢街道よりも古くから河芸町豊津地区の中別保から一色、影重を通り白塚へ通じる中道がある。この中道は通称『仁王縄手』と呼ばれていた。
- 86 昭和33年農作業中に奈良時代の和同開珎銀銭が発見された場所は、河芸町『千里ヶ丘』地区である。
- 87 明治政府が産業振興、製糸技能習得のため募集。三重県では亀山の「矢田はる」が選ばれ、洋式繰糸法を習得、帰郷後田中音吉と結婚、亀山製糸の元となる会社を創立。晩年両氏は鈴鹿郡一円に多くのあるものを建て、芸濃地域にも5基ある。あるものとは『道標』である。
- 88 芸濃町林地区の普門寺は真言宗古義派・仁和寺の末寺。元は天台宗の大寺院で、大同元年(806)最澄の開基と伝わる。天正2年(1574)信長の侵攻により焼失したが、その後再建された。今は『紅葉の名所』としても知られる。
- 89 芸濃町北神山(きたこやま)地内の安濃川堤防沿いにソメイヨシノの桜並木がある。地元では『花街道』と呼ばれている。
- 90 安濃町を流れる穴倉川には、終生公共事業に尽くした松島弥三八翁が寄付した橋があり、『弥三八橋』と呼ばれている。
- 91 片田地区から美里町に入った所の「吹上の道標」は、国道163号から少し南へ折れた所にある。「右さんぐう道(参宮街道)」、『左津』と書かれている。
- 92 長野峠の別名は『橡の木峠』である。
- 93 俱留尊山(標高1037.6m)は美杉町太郎生地区と奈良県曾爾村との境の山。両地区は「○○」で結ばれている。また、青山高原の布引の滝は「○○」沿にある。○○とは『東海自然歩道』である。
- 94 天正4年(1576)難攻不落といわれた霧山城も信長に攻め落とされた。今も堀切や土塁など中世の山城の形を良く残している。昭和11年『名勝』として国の文化財に指定されて

いる。

- 95 一志町片山地区の雲出川沿いと、高野地区の高野用水沿いの2カ所に残っている長い堤は、『信長堤』とよばれている。
- 96 老松が林立する香良洲公園は、元は香良洲神社の神領地であったが、現在は市名勝と『伊勢の海・県立自然公園』に指定されている。
- 97 伊勢湾一帯は小女子漁が盛ん。毎年伊勢路に春を告げる小女子は、豊津や白塚の大事な産物となっている。この小女子、夏場は『伊勢湾を回遊』している。
- 98 カニやサンマの卸・直売の一方、黒の小女子、百玄ちりめんなど海産物のオリジナル商品に加え、サプリメント「海洋性濃縮コラーゲン」も開発している水産会社は、河芸町の『別保水産』である。
- 99 乙部兵庫守の中河原城跡に開山したと伝える子安地藏院。境内には井関石の石棺に地藏菩薩を彫った石棺地藏もある。井関石の産地は『一志町』である。
- 100 かつての日本鋼管津造船所、幅75m・長さ500mの大型ドックを持つ造船部門の現在の社名は『ジャパンマリンユナイテッド(株)津事業所』である。
- 101 雲出井(くもずゆ)は、西島八兵衛が戸木地内の雲出川に取水口を設けた用水路。蛇川(じゃがわ)と交差する地点で『サイフォン』という特殊工法が使われている。
- 102 明治26年に開設され、当時は津の南の玄関口として大賑わいの駅だった。乗降客も多く、久居駐屯地の兵隊の送迎、東洋紡などの工場の原料や製品の輸送に使われたこの駅は『高茶屋駅』である。
- 103 安濃ダムは安濃川の上流、芸濃町河内地区に建設された重力式コンクリートダムで昭和61年に完成し、津市西北部に広がる3180haの農地に水を供給している。堤長は212m、高さは『73m』である。
- 104 安濃町の津市安濃交流会館には、「あのう温泉」がある。加温循環浴槽と源泉掛け流し浴槽があり、この温泉には『舐めると少し塩辛い』という特徴がある。
- 105 美里町内に設置されている19基の風力発電装置が全てフル稼働すると、発電総出力(2000Kw×19)は、一般家庭『2万6千世帯』分の電力を供給することができる。
- 106 青山高原には風車が林立している。既設の風車は直径が50mと『80m』がある。

- 107 一志町の「波多の横山」が舞台となっている万葉集の「川の上の ゆつ岩群に 草生さず常にもがもな 常処女にて」を名称の由来とし、天然温泉施設がある地域交流の拠点となっている場所は『とことめの里』である。
- 108 昭和60年に開館した後、改修を経て現在「展示室」を設けて「一志町歴史語り部の会」が運営・案内をしている施設は、『JA 三重中央郷土資料館』である。
- 109 消費者の声に基づき企画した、JA 三重中央の地産地消オリジナル餃子。主に地元産キャベツをたっぷり使い、これに三重県産豚肉、ニンニクを加え、化学調味料・保存料無添加のヘルシーで美味しいと好評だ。商品名は『しんちゃん餃子』という。
- 110 チョコレート菓子を軸にした「T²の菓子工房」。大門の和菓子店が、たった3種類のアイテムで創業し、人気店に成長した。この和菓子店とは『福寿軒』である。
- 111 半泥子の招きで津にできたグルメスポットが二つある。一つは洋食の東洋軒、もう一つは和食の『はま作』である。
- 112 歴代津藩主の正月の祝い膳を飾った料理は、高虎ゆかりの『故郷近江のフナずし』である。
- 113 一身田橋向の「杉甚商店」の駐車場には一昔前の給油機があり、人気の食品『専修寺こんにゃく』も製造販売している。
- 114 河芸町豊津地区の製菓舗がざる破り神事にちなんで作っている隠れた銘菓は『ざる饅頭』である。
- 115 芸濃地区の特産物。主に京都の料亭に出荷されているが、錫杖湖水荘レストランの錫杖うどんや津ぎょうぎにも使われている野菜は『独活（うど）』である。
- 116 安濃町草生地区にある「野菜茶業研究所」で平成18年に開発されたナスビの新品種。労力のかかる受粉や植物ホルモン剤処理なしでも実が多くつき、ナスビ栽培に大幅な省力化をはかる画期的な新品種名は『あのみり』である。
- 117 白山町中ノ村地区の地産直売所には、ある物を生産する工房が併設されている。地元で生産される原材料を使い、地元の女性が毎日手作りして好評を得ている、その商品は『餅』である。
- 118 昔、榊原では家を建てるのも近所の人手を借りた。柱を立てる土台石を固めるのに、櫓を建てて大勢で石突きをした。施主はお礼として『大豆ご飯のおにぎり』を振る舞った。

- 119 榊原で人が寄る時に出されるご飯は普通の白米ご飯もあるが、必ず出される定番のご飯は『赤飯』である。
- 120 榊原温泉土産として榊原で製造販売しているお菓子は『ななくりせんべい』である。